



天売島の 生きもの 散策マップ

〈制作・発行〉
北海道海鳥センター / NPO 法人 EnVision 環境保全事務所
〈協力〉
Conservation Dimensions Inc. (カナダ)

生きものと人が共生する島 天売島へようこそ

北海道北西部の日本海側に浮かぶ島、天売島。周囲 12km の小さな有人島には、海獣類などが生息し、多くの渡り鳥が集まるなど、多様な生きものに会えます。世界有数の海鳥の繁殖地でもあり、春には数十万羽の海鳥が子育てのためにやって来ます。島の中では、海鳥をはじめとした、さまざまな生命の営みが繰り広げられています。



海鳥が暮らす環境

天売島の海鳥繁殖地は、集落のある東海岸の反対側に位置する西海岸にあり、高さ 100m を超える断崖が続きます。海に面した崖は外敵が近づきにくいので、多くの海鳥が崖のくぼみや隙間、岩棚を利用して子育てをしています。



天売島で繁殖する海鳥たち



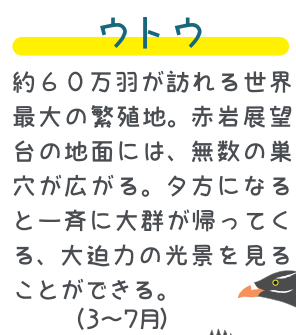
ウミガラス

日本唯一の繁殖地。崖のくぼみ（巣棚）に営巣し、1日に何度も巣棚を出入りしてエサを獲りに行く。羽幌―天売島の航路やクルーズ船で観察できる。（3～7月）



オオセグロカモメ

日本で繁殖するカモメの仲間では1番体が大きい。ピンクの足が特徴。海鳥観察舎から、断崖の斜面で子育てする様子が観察できる。（1～12月）



ウトウ

約60万羽が訪れる世界最大の繁殖地。赤岩展望台の地面には、無数の巣穴が広がる。夕方になると一斉に大群が帰ってくる、大迫力の光景を見ることができる。（3～7月）



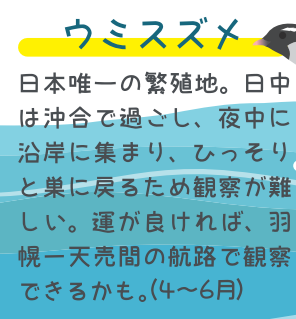
ウミネコ

日本とその近海にのみ生息。オオセグロカモメより小さく、黄色い足が特徴。黒崎海岸では、ウミネコの親子を近くで観察できる。（3～7月）



ケイマフリ

日本とその近海にのみ生息し、世界的にみても数が少ない種類。繁殖期の5月～7月頃は、美しい声で鳴き交わす様子を赤岩展望台から観察できる。



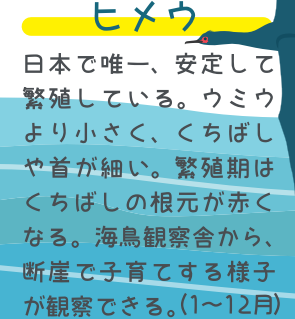
ウミスズメ

日本唯一の繁殖地。日中は沖合で過ごし、夜中に沿岸に集まり、ひっそりと巣に戻るため観察が難しい。運が良ければ、羽幌―天売間の航路で観察できるかも。（4～6月）



ウミウ

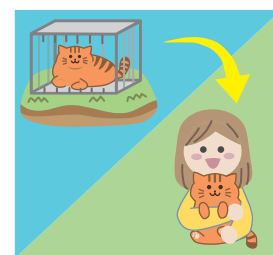
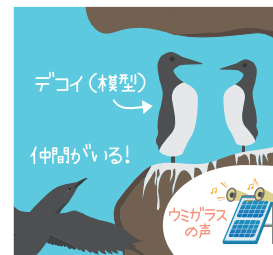
1年を通して観察できる。体は緑色の光沢のある黒色で、くちばしや首が長い。岩礁や港で群れをつくって休息し、翼を広げ羽を乾かしている姿がよく見られる。



ヒメウ

日本で唯一、安定して繁殖している。ウミウより小さく、くちばしや首が細い。繁殖期はくちばしの根元が赤くなる。海鳥観察舎から、断崖で子育てする様子が観察できる。（1～12月）

人と海鳥が共生するために



生息数が激減してしまったウミガラスを増やすため、デコイ（模型）の設置や音声を使った飛来を促す取り組み、ハシブトガラスなどの捕食者の捕獲が行われています。

以前、天売島には 200 匹以上のノラネコが生息し、ウトウやウミネコが襲われていました。ノラネコを捕獲して、人が飼えるように馴らし、新しい飼い主に譲渡する取り組みが行われています。

海鳥に優しい取り組みを行う事業者をシーバードフレンドリー（SBF）認証制度で応援しています。SBF 認証された商品を購入することで海鳥保護につながります。

生きもの観察を楽しむためのお願い

たくさんの生きもののにぎわう素敵な島ですが、人が生きものとの接し方を誤ってしまうと、安心して暮らすことができなくなります。そうならないようにマナーを守り、観察を楽しみましょう。

- 野生動物に食べ物を与えないでください。
- 道から外れず、舗装路の上から観察しましょう。
- 野生動物を驚かさないよう、適切な距離で観察しましょう。
- ゴミは責任を持って持ち帰りましょう。



■ お問い合わせ 北海道海鳥センター
〒078-4116
北海道苫前群羽幌町北6条1丁目
TEL 0164-69-2080

開館時間 午前9時～午後5時
※冬期間（11月～3月）は午前9時～午後4時
開館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始
入館料 無料